

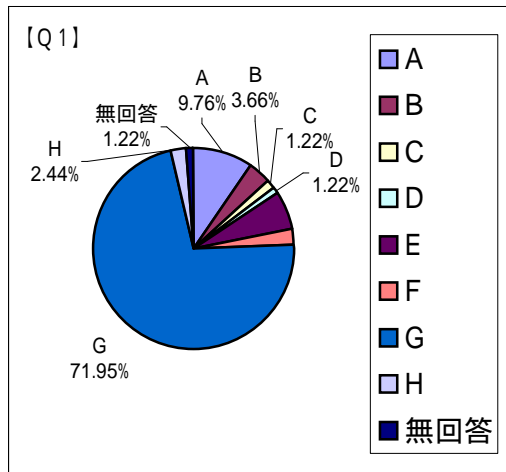
「機関リポジトリの将来をさぐる」来場者アンケート

2005年9月20日(火)開催
千葉大学附属図書館

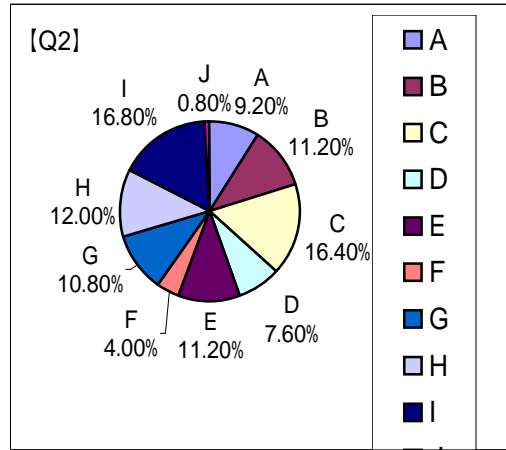
【回答内訳】

	人数
来場者数	133
回答者数	82
未回答	51
回答率	61.65%

【Q1】あなたは次のいずれに該当しますか。		Q1	
		回答数	%
A	千葉大の研究者	8	9.76
B	千葉大以外の研究者	3	3.66
C	千葉大の大学院生・学生等	1	1.22
D	千葉大以外の大学院生・学生等	1	1.22
E	出版・IT業界関係者	5	6.10
F	出版・IT業界以外の民間企業等	2	2.44
G	図書館職員等	59	71.95
H	その他	2	2.44
無回答		1	1.22
その他	私大職員、学会	82	100.00

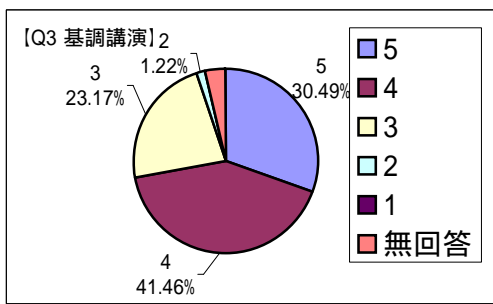


【Q2】機関リポジトリに関連して特にどのような話題に関心がありますか。(複)		Q2	
		回答数	%
A	オープンアクセス運動	23	9.20
B	今後の学術出版	28	11.20
C	大学の情報発信	41	16.40
D	社会貢献との関係	19	7.60
E	著作権	28	11.20
F	海外の先行事例	10	4.00
G	システム(ソフトウェア、OAI等)	27	10.80
H	メタデータ(DC、juniiフォーマット等)	30	12.00
I	構築・運用に関する実務的諸課題(コンテンツ収集方法等)	42	16.80
J	その他	2	0.80
		250	100.00

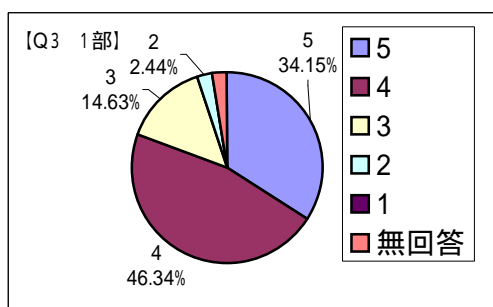


回答例 保存の問題
品質の維持, 査読
信頼性が保証

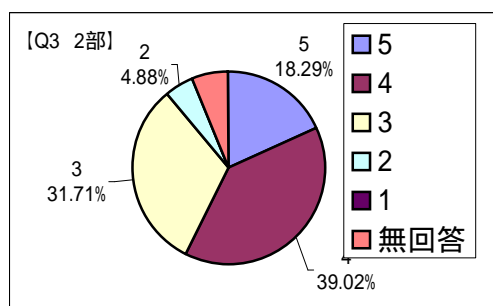
【Q3】本日の講演内容はいかがでしたか？ 基調講演	Q3 基調講演	
	回答数	%
5	25	30.49
4	34	41.46
3	19	23.17
2	1	1.22
1	0	0.00
無回答	3	3.66
	82	100.00



【Q3】本日の講演内容はいかがでしたか？ 1部	Q3 1部	
	回答数	%
5	28	34.15
4	38	46.34
3	12	14.63
2	2	2.44
1	0	0.00
無回答	2	2.44
	82	100.00



【Q3】本日の講演内容はいかがでしたか？ 2部	Q3 2部	
	回答数	%
5	15	18.29
4	32	39.02
3	26	31.71
2	4	4.88
1	0	0.00
無回答	5	6.10
	82	100.00



【Q3】本日の講演内容はいかがでしたか。感想をお聞かせください。(具体的に)

回答例

(全体の構成について)

- ・ 2部立てに少し無理があるように感じた。前半をもっと詰めた方がよかったように思います。
- ・ パネルディスカッションの時間が足りない。パネラーの講演時間を守らせるようにすべきだった。
- ・ 実務的な問題について、もう少し話をききたかった。
- ・ 阿藤品氏のパワーポイント資料も欲しかった。

(シンポジウムの開催について)

- ・ 数々の分野の研究者の発言を聞いたことは業務に有益であった。
- ・ 教員・研究者・出版されている方の生の問題点課題が出されおもしろい。
- ・ IRとEJの関係についてのみになってしまったのは残念。IRの意義についてもう少し語って欲しかった。
- ・ それぞれの分野からの発言があり、スタートのシンポとしては良かった

(基調講演)

- ・ IRについて、設置目的として知的アイデンティティを主張することは、世界における日本の位置付けや、大学の説明責任として良い論理になると思われる。

(1部)

- ・ 第1部パネル討議にもう少し時間をさいて欲しかった。
- ・ パネル討議のコーディネーターが見事だと思った。

(2部)

- ・ 第2部のセッションがいまいちリポジトリへの結びつきが繋がらず残念だった。
- ・ 第2部はいろいろな立場、分野の意見が聞けて面白かった。
- ・ 第2部の、のご講演と今回のシンポジウムの主旨との関連性が良く分からなかった。
- ・ 第2部の方が、焦点がよくわからなかったが、竹内先生の話を書いたのはよかった

(IRについての意見)

- ・ (IRに)収録されるものの信頼性、品質管理、保存など様ような視点・問題などがあることが認識された
- ・ 非英語圏で、電子ジャーナル出版社に負けない、日本の知的財産の保護と活用は日本の死活問題で

ある。もっと活発に論議すべき

- ・ (IRの) 具体的な今後の方向性となるとまだまだ不明および不安な部分があるように思った。
- ・ IRについて、まだ共通の理解が出来ていない感じがした
- ・ 一般人への公開と専門家への公開 - 理解しやすさの差異
- ・ IRが説明責任としてどうこうというより、広報や商売下手が根本問題と思う
- ・ メタデータに関してDublin Coreにみられるトップダウンな付加の方法では研究Community内でしか利用できないこと(事例、根拠)が示されて興味深かった。

【Q4】 本日の講演全体を通じたご感想(印象に残った講演、構成、時間配分等)をお聞かせください。

(印象に残った講演)

- ・ 竹内先生の講演。デジタル・プリゼーションに関する問題について、わかりやすく説明されていた。
- ・ 研究者におけるニーズを伺えたことが良かった
- ・ 土屋先生、竹内先生、広井先生、尾城さんの話しはわかりやすかった
- ・ 医学関係はあまり聞く機会がなく新鮮だった
- ・ パネル第1部の太田氏の講演が興味深かった

(構成、時間配分等)

- ・ 前半の立場を鮮明にした論議は大変有益でした
- ・ パネルディスカッションを順序だてて意見を引き出すものにして欲しかった
- ・ パネルディスカッションで司会者の質問が的確な流れを作っていたと思うが、やや時間が足りず残念
- ・ (IRの) 可能性と問題点をよくかきあがらせていた
- ・ CURATOR立ち上げ、公開までの具体的な業務、苦労話などもう少し詳しく聞きたい
- ・ CURATORの紹介ももっと時間をかけても良かったのではないか
- ・ 他大学がリポジトリを進める上で参考になる点について、図書館が前面に出て問題点、苦労した点の話を聞きたかった。
- ・ 竹内先生のご講演を第1部に盛り込んで、プレゼン時間を各5分程度拡大して欲しかった。
- ・ 第1部中心に時間配分して欲しかった。
- ・ 図書館スタッフからの報告、問題提起があってもよかったのでは。
- ・ 報告がないということ自体、現在の図書館の実状を背影していると思われた。
- ・ 午後半日ではなく午前から開始のほうが良かったので。
- ・ 今後の学術雑誌と研究者及び出版社の関係について多様な立場から有意義な意見交換が出来た。
- ・ 研究者の立場から見たリポジトリの話が普段わからないので興味深かった。
- ・ 時間が足りず残念。

(IRについて)

- ・ 機関リポジトリにとって、研究者の理解が一番重要であると認識しました。
- ・ 内容が非常に充実していてよかった。単に図書館だけの話ではないことをあらためて認識した。
- ・ JuNii+へのメタデータへのハーヴェスティングについて、メタデータにNDC分類、件名等を記述しなければいけないという点をゆるめていただき、NDC分類無しでもハーヴェスト可能にならないだろうか。
- ・ IRのソフトウェア、データ構造、文字コードについては、やはりNIIが責任を持つべきだと思う。横断検索のできないデータベース群は悲しい。
- ・ IRの品質管理が興味深い。
- ・ IRは実施しつつ、定期的になおす仕組みが必要であろう。
- ・ IRに登録されている資源についてのミスコンダクトに機関としてどう対応するかは大きな課題と思った。
- ・ IR構築の最大の問題は、日本国内に各分野を代表できる査読誌or査読機関がないことではないか(図書館staffの査読能力有無を含めて)？

【Q5】 その他、ご意見・ご感想等をご自由にご記入ください。

(意見)

- ・ 日本で学術論文出版社が成立しない本当の理由は？
- ・ 機関リポジトリの意義，学術雑誌との住み分けについて議論が深まるとよりよかったのでは？
- ・ リポジトリへの教員による協力 (archiving)の方法論が見えない。
- ・ IRのシンポジウムを定例化していただき、リポジトリの運用を国内に拡大するサポートをしてほしい
- ・ 図書館としては保存という面で役割を果たすことは理解できるが、情報の収集(学内情報全把握は難しい)、発信の面での経験はなく、そのあたりにつっこんだ報告を期待したい。
- ・ 生涯教育，オープンアクセス，プリザベーションなど、予算や枠組みのレベルとして、大学，図書館，学会それぞれで考えなければならないようです
- ・ 機関リポジトリの地域連携としての在り方、社会との関わり方
- ・ 学術情報以外のものが多い公共図書館でのリポジトリやメタデータを国立国会図書館関西館あたりでメタデータベースのハブをつくって…と思う。
- ・ 研究者のインセンティブとアカウントビリティ、(更に保存)というのは必ずしも両立するものではないと思うが、それをどのように解決していくのかが気になりました

(質問)

- ・ <著者版>の登録を考えているようですが、校正の過程で生ずる<出版社版>との違いにはどのように対応していくのでしょうか？
- ・ WEB上の土屋先生の資料の中に、「Stanford大と大学出版会の関係が好モデル」という趣旨のものがあったが、具体的にはどのような関係なのかご教示ください。
- ・ 本学リポジトリに保存・公開する学術研究成果は、査読のある論文のように品質が保証されているものと理解していたが、本シンポジウムでは個人の責任で何でも登録することが出来るという。これまでの図書館側の説明と異なるように感じたので、何を登録する、できるのかを具体的に説明して欲しい。(千葉大研究者)
- ・ 学会誌，Journal等に既発表の論文をリポジトリにUploadするには、どのような手続が必要なのか？
- ・ IRの成功、継続のために、教員さらに大学全体で認知してもらうにはどうすればいいか？

(要望)

- ・ 第2弾の開催を。コンテンツ収集や品質管理の問題について、他大学の例を含めて聴きたい。(それは国大図協などをお願いすることかもしれませんが。)
- ・ このシンポジウム(の要旨)をHPに載せては？
- ・ 阿蘇品氏のレジュメを送付してほしい。

(感想)

- ・ お茶の配布がありがたかった。
- ・ マイクの調子が悪く、所々声が聞こえないのが気になった。